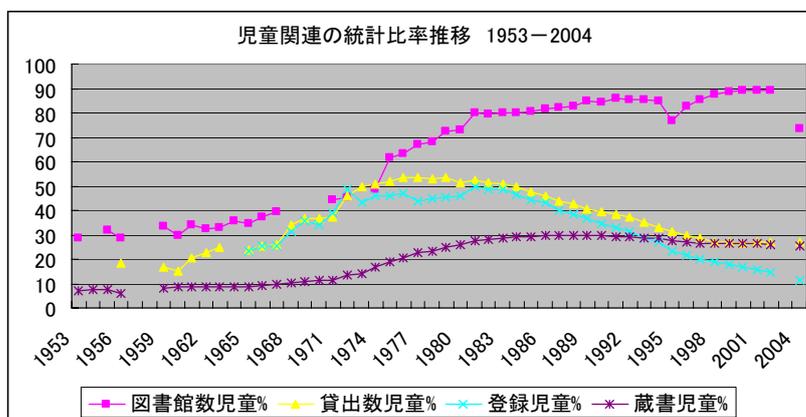


## 子ども図書館についての考察

06L4389 堀尾侑香

### 1. 公共図書館・家庭文庫・絵本美術館

- (1) 公共図書館：図書館サービスを児童にも提供するものであり、多くは児童室の形でサービスをおこなっている。
- (2) 家庭文庫：個人や私的なグループが近所の子どものために自宅を開放し、蔵書を提供する場所である。
- (3) 絵本美術館：絵本を美術的価値のあるものとして収集・保存・公開している。



### 2. 実地調査

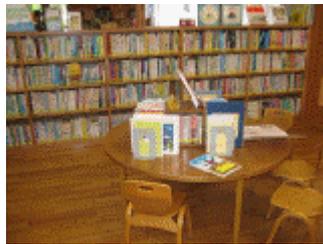
実地調査した館

名称	所有者	設立年月日	所在地	URL
安曇野ちひろ美術館	松本猛	1997年4月 19日	長野県北安曇野 郡松川村西原 3358-24	<a href="http://www.chihiro.jp/">www.chihiro.jp/</a>
絵本美術館&コ テージ 森のお うち	酒井倫子	1994年4月 29日	長野県安曇野市 穂高有明 2215-9	<a href="http://www.morinoouchi.com/">www.morinoouchi.com/</a>
東京子ども図書 館 (私設図書館)	松岡享子	1974年	東京都中野区江 原町 1-19-10	<a href="http://www.tcl.or.jp">http://www.tcl.or.jp</a>



安曇野ちひろ美術館(写真左、中央)

絵本美術館&コテージ(写真右)



東京子ども図書館(写真左、右)

### 3. 考察

#### (1) 実地調査から分かったこと

絵本美術館はその美術館の所蔵する絵本(特に対象としている絵本)を中心に読み聞かせ・企画展示をする傾向にあり、私設図書館は年齢別に分けたカタログや図書館内で常に読み聞かせが出来る環境等児童に対するサービスが充実していた。

#### (2) 児童サービスを提供する図書館等の問題点

家庭文庫は現在、利用者の減少による撤退・実演サービスへの移行が見られ、公共図書館の設立や改善を目指して生まれた背景から、文庫の使命が終わったとの見方もある。しかし、現代のライフスタイルに合わせた新たな文庫の役割もあると思われる。

公共図書館においては児童室数の増加とは反対に、利用児童者数・貸出児童者数には減少が見られている。

絵本美術館は、大人が絵本を楽しむ場としての面が強いが、お話会を開催している絵本美術館が数多くあり、図書館と協力したサービスを行えるのではないかと感じた。

### 4. おわりに

今回調査した子ども図書館・家庭文庫・絵本美術館はそれぞれ特徴や背景は異なるものであるが、児童にサービスを提供する点や絵本を扱うといった点では共通するものであり互いに連携・協力を図ることで、子どもがすぐに本を手に取り読むことのできる環境整備を進めていけるのではないかと感じた。